

商船三井内航・田渕海運等

メタノール燃料内航ケミカル船「第一めた丸」が就航

国内初カナサシ重工で建造

商船三井、商船三井内航、田渕海運、新居浜海運、村上秀造船、阪神内燃機工業の6社の共同プロジェクトにより、村上秀造船グループのカナサシ重工で建造していた国内初のメタノール燃料内航ケミカルタンカー「第一めた丸」(574総トン)がこのほど竣工し、12月13日に就航した。

本船は商船三井内航、田渕海運および新居浜海運の3社が共同で建造。竣工後は新居浜海運に裸

用船され、さらに田渕海運を通じて商船三井内航へ定期用船される。商船三井内航は三菱商事を荷主として国内メタノール輸送に従事する。

メタノールは、現在の主たる船舶燃料である重油と比較し、燃焼時のSOx排出量を最大99%、PM排出量を最大95%、NOx排出量を最大80%、CO₂排出量を最大15%削減する環境にやさしい燃料。CO₂と水素を原料に製造できること

から、将来的には回収したCO₂と再生可能エネルギー由来の水素で製造可能であり、サステナブルな燃料となることが期待されている。

今回、阪神内燃機工業が開発したメタノール燃料エンジン「LA28M」は、内航船向けに多数の実績を有する低速4サイクルエンジン「LA28」の出力および回転数域を踏襲し、高い信頼性を継承。駆動部の基本構造を現行のディーゼルエンジンと同一とし、メタノールを主燃料、A重油をパイロット燃料とする直接噴射式のメタノール専焼ディーゼルエンジンとなっている。

そのほか、本船には自動荷役装置を採用して乗組員の作業負担軽減を図るほか、阪神内燃機工業の船舶運航サポートシステム「HANASYS 5」を搭載するなど、最新鋭の機器・システムを備えた船舶となる。

メタノール燃料船「第

一めた丸」の主要目は次のとおり。

◇総トン数 574ト

◇載貨容積 1199

◇垂線間長 61.00m

◇型幅 10.00m

◇型深さ 5.30m

◇主機関 阪神内燃機工業製 LA28M 735

◇航海速力 11.4ノット



メタノール燃料内航ケミカル船「第一めた丸」